



Title	工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識：はじめに
Author(s)	小内, 透
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 16
Issue Date	1998-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/24467">https://hdl.handle.net/2115/24467</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	16_Hajimeni.pdf



## はじめに

『調査と社会理論』・研究報告書は、故布施鉄治教授の手によって、1980年に第1号が発刊された。以来、今日に至るまで、着実に研究成果を積み重ね、今回、第16号として、『工業集積地域における高校間格差と高校生の生活・意識』を発行することとなった。

筆者は、学生・院生として、布施鉄治先生の薫陶を受け、本研究報告書シリーズのうち、第2号、第3号、第9号、第14号の発行に参加する機会を与えられた。本研究報告書シリーズ、第2号は、筆者が大学院の修士課程の時に発行されたもので、研究者としてスタートラインにたったばかりの時に、枚数制限もなしに、実証的な論文を自由に執筆させていただいたことは、後の研究生生活にとって大きな意味をもった。

しかし、本研究報告書は、1990年に第14号が発行されて以降、布施鉄治先生の体調が崩れ、1994年に定年退官されたこともあって、長い間、休刊状態にあった。その間、小林甫教授が本研究室を切り盛りしていたが、1996年に本学の他部局へ転出したことも、大きな痛手となった。たまたま、1995年から筆者が本研究室に戻り、科学研究費の報告書を執筆する機会があったため、それに合わせて、昨年、本報告書の第15号を発行することになった。その際、それまでの伝統であった赤い表紙、B5判を現在の体裁に変更した。本研究報告書が装いを新たに、再スタートを切ることになったのである。ただ、その時には、慌ただしく発行したため、この間の事情について、ふれる余裕がなかった。そのため、ここで、改めて、この間の経緯にふれた次第である。

昨年、新たにスタートした本研究報告書は、「北関東工業集積地域の社会学的基礎研究 その1」として位置づけられている。これは、筆者が科学研究費を受け、1994年度から開始した地域総合研究の研究成果の第1弾である。科学研究費補助金は1996年度で終了したが、この研究プロジェクトは、他大学の研究者との共同研究として現在も継続中である。この研究の基本的な課題は、工業集積にともなう地域社会変動のメカニズムを解明することにある。その際、この課題にアプローチするにあたって、本研究室が蓄積してきた総合的な地域社会研究の手法を踏襲しながら、可能な限り、独自の視点を盛り込もうと試みている。

こうした研究は、時間と労力がかかり、まとまった成果を出すのは、なかなか難しい。近年、分野の如何を問わず、性急に研究成果が求められる傾向が広まっているため、長い時間と多くの労力を必要とする研究は、敬遠されがちになっている。しかし、地道な研究を積み重ねなければ、真の成果は生まれない。むしろ、地道な研究の積み重ねそれ自体が、価値をもっているときさえ考えられる。とりわけ、複雑な社会現象・教育現象の解明をめざす、社会学や教育社会学の場合、その感が強い。本研究報告書は、このような地道な研究の積み重ねを確実に保証する役割をもってきたし、今後も、その役割を維持していこうと考えている。

今回、発行する本研究報告書、第17号は、「北関東工業集積地域の社会学的基礎研究」の第2弾にあたる。第16号では、工業集積地域の地域住民を対象にした、「市民アンケート調査」にもとづいて、地域社会の階級・階層構造と地域住民の労働—生活世界の実相をまとめた。これに続いて、第17号では、同じ地域で実施した、「高校生と親の生活・意識に関する実態調査」にもとづいて、高校間格差と階級・階層、ジェンダーとの関わりを焦点にすえながら、高校生とその親の生活や意識を明らかにした。この報告書が、現代の教育問題、社会問題を考える上で、基礎的な資料になれば幸いである。

最後に、高校生調査に協力していただいた、各高校の諸先生方、高校生、父母の皆様にも、心より感謝の意を表したい。